

## A委員会 生徒の相談活動（通信制）

通信制は、基本的にスクーリングがある日曜日（年間20回）と水曜日（年間16回）、それに支部学習会がある木曜日（年間30回）が出校の機会となる。もちろんそれ以外の曜日にも出校して学習をする生徒はいる。卒業予定者がレポートを提出してテストを受験し、卒業の目途がたつのは早い生徒でも7・8月頃である。その時点で卒業後の進路を考え始めては間に合わないので、学習と並行して進路を考えておかなければならない。自学自習を中心として学習を進めるだけで手いっぱいになる生徒も数多く見られる。

このような状況の中で、進路に対する意識の高い生徒が進路アドバイザーやキャリアカウンセラーに面談を申し込み、指導を受けている。そのうちの主だった4名について、下記に面談内容をあげる。

### ◇面談内容（進路アドバイザーおよびキャリアカウンセラー）

#### A（女子）：就職希望（面談13回）

- ・希望条件が勤務地：仙台市内・給与：手取り19万以上・業種は飲食以外の求職
- ・面接練習に臨むまでの準備や質問内容についてのアドバイス
- ・筆記試験対策と自己PRの作成の仕方と話し方についてのアドバイス

#### B（女子）：就職希望（面談7回）

- ・求人票の検索の方法や内容の検討の仕方、応募前企業見学に関する相談
- ・面接練習、特に志望動機の話し方や話す時間を中心にアドバイス
- ・履歴書等の内容を立派に話すというよりも、質問に対して一生懸命に答える

#### C（男子）：就職希望（面談4回）

- ・応募前企業見学に向けての準備についてのアドバイス
- ・履歴書の添削指導。企業見学参加をふまえた志望動機の作成について

#### D（女子）：保育系短期大学希望（面談3回）

- ・幼稚園と保育園との違いや実働の仕事内用や仕事量などについて
- ・応募短期大学の推薦入試に向けた面接指導。立ち居振る舞いも怠りなく
- ・志望動機を中心に更なる演習。質問に対しては、短くてもとにかく話す

面談をしていただいた生徒の中には、一回目の試験で合格した生徒もいれば、不合格で次の試験に向かってがんばっている生徒もいる。いずれの生徒も継続して進路アドバイザーやキャリアカウンセラーに面談をお願いした（している）ことから、面談がいかに役に立っているかが十分に理解できる。そして、一度失敗してしまうとなかなか次に向かうことができなくなってしまうことが時折見られる本校通信制の生徒が、また次に向かつていこうとする姿勢が見られることは何よりも素晴らしいことだと思う。

## H29 ソーシャルスキルトレーニング講座

回	月日	曜日	担当者	テーマ	内容
1	7月19日	水	桑名 暢	進路実現準備講座 志望動機&会社訪問	・志望動機を書く際のポイント（就職・進学） ・会社訪問の重要性
2	8月7日	月	桑名 暢	進路実現準備講座 志望動機&自己PR	・志望動機を書く際のポイント（就職・進学） ・すぐできる自己PRの作り方
3	9月13日	水	桑名 暢	面接対策講座①	・面接官が見ているポイント（就職・進学） ・面接官が本当に話してほしい内容
4	10月4日	水	桑名 暢	面接対策講座②	・面接官に伝わりやすい話し方 ・面接官が質問する意味
5	10月10日	火	桑名 暢	報告・連絡・相談の習慣	・就職後、進学後に必要な意味 ・今日からできる連絡⇒相談⇒報告
6	10月25日	水	桑名 暢	4つのタイプでわかるコミュニケーション	・人との付き合い方をタイプ別に学ぶ ・上司や同僚との付き合い方について
7	11月8日	水	桑名 暢	メモの取り方・残し方	・相手にも自分にもわかりやすいメモの取り方 ・メモは相手のために取る
8	11月22日	水	桑名 暢	敬語の大切さと言葉の力	・敬語の覚え方や使ってはいけない言葉遣い ・たった一言で相手のためになる言葉とは
9	12月6日	水	桑名 暢	ビジネスマナーを知る①	・学生と社会人（企業人）の違いについて ・3つの習慣と7つの言葉
10	12月19日	火	桑名 暢	ビジネスマナーを知る②	・社会人1年目だからできること ・気配りと心配り
11	1月11日	木	尾形 淳子	卒業後に「所属」することの大切さ	・卒業後の進路を何となくではなく考える。 ・保護者との話し合いのポイント
12	1月25日	木	尾形 淳子	良いところ探し ～ものの考え方のコツ	・悪いところ探しをしない。 ・情報や噂話に左右されない考え方。
13	2月8日	木	尾形 淳子	人を喜ばせる話の聞き方	・コミュニケーションの基本は話を聞くこと ・聞く姿勢・メモの取り方等

【時間】 11:30 ~ 12:20 / 15:45 ~ 16:30

※午前・午後、同じメニューをしますので都合のつく方に来てください。

【場所】 66教室

昨年度まで11回～13回は、次年度卒業予定者を中心とした「コミュニケーションのスキル講座」を行ってきました。

しかし、残念ながらSST講座は次年度は開講が難しいようです。次年度参加しようと思っていたみなさんのために、桑名先生・尾形先生と相談をし、この1月からの3回を「特別メニュー」にすることにしました。

内容は上を見てください。できれば3回出てほしいところですが、都合がつかない場合はこの回だけでもOKです。

☆定時制の授業の都合で、1～2年も確実に空き時間となるのが他部のLHRの時間なので、木曜日の4時間目8時間目に設定します。



## B委員会 講座・研修（定時制）

### (1) ソーシャルスキルトレーニング講座（SST）

「ソーシャルスキルトレーニング講座」を全13回で計画した。1・2回は「志望動機  
の書き方」を中心に就職の準備対策としたが、特に2回は夏期休業中ということもあつ  
て教職員も含め多くの参加となった。前述の計画にあるとおり1～10回はキャリアカ  
ウンセラーの桑名先生を講師に「就職試験の実質的なスキル」「就職してから役立つスキ  
ル」を行っていただいた。11～13回はこれまで進路アドバイザーの尾形先生を講師  
に「自己理解」「コミュニケーションスキル」という内容で実施してきたが、次年度は同  
内容で講座を実施できる目途は立っていないため、この3回を特別版ということで組み  
直し実施する予定である。

その有用性を踏まえ有識者である委員の方からも「授業化」「単位化」した方が生徒は  
参加しやすいだろうというご意見を頂戴し、更に教職員からもクラス全員に聞かせたい  
という声もある。今後はそれらの意見もふまえて展開を考えて行かなくてはならない。



#### ①参加状況

		回									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
生徒	定時制	26	33	23	13	8	19	15	11	14	8
	通信制	14	12	3	1	3	3	4	2	3	1
	計	40	45	26	14	11	22	19	13	17	9
教員	定時制	5	3	6	6	5	2	5	5	4	2
	通信制	2	1	2	2	1	1	1	1	1	1
	計	7	4	8	8	6	3	6	6	5	3
合計		47	49	34	22	17	25	25	19	22	12

今年度は最終年度ということで研究報告会を2月に予定しており、それに合わせて研  
究集録の完成を2月としたため、1～3月に開講する11～13回の参加状況・振り返  
りシートの意見を割愛した。12月末までに、定時制Ⅰ部24名・Ⅱ部14名・Ⅲ部5  
名、通信制Ⅳ部19名の計62名の生徒が自主的に参加した。参加者は各回の終了後に  
「振り返りシート」を記入している。その内容を抜粋した。

## ②振り返りシートから

### 第1回

- 自分は文章を書くのは苦手です。しかし、今回の講座で、まずは自分が学びたいことや興味があることを挙げて、それを文章にまとめれば自分にも出来るんだと勇気をもらいました。
- 会社訪問の日程が決まり考えていたところでこの講座があり、とても助かりました。会社が求めている人、良かった点などをしっかり見て来たいとおもいます。とてもわかりやすかった。

### 第2回

- 書けない、書かないではなく、箇条書きでも良いから書いてみるということを中心に掛けていきたいと思いました。自分じゃなく相手が見やすい字を書く事も心掛けていきたいと思いました。
- 志望の動機を書く時は140字（7×20）を目安に書く事や、きっかけを書けば良いことを分かって良かった。

### 第3回

- 今まで面接は怖いものと思っていましたが、そうでなく、ただ自分を知らうための機会なのだと分かりました。必要以上に緊張せずに会話をするという気持ちで行おうと思った。
- 面接試験に向けて大切にすべきこと教えて頂きました。どういう気持ちで試験に臨むべきか、頭で整理できました。体調管理しっかりします。

### 第4回

- インプット、アウトプットの具体的な事例を聞いて勉強になりました。言われてみれば企業訪問に行った後、どんなことを思ったか聞かれたのは、アウトプットのためだと思いました。次の試験に向けてインプット・アウトプットをしていきます。
- インプット・アウトプットの自分に足りないところが分かりました。

### 第5回

- 私は、あまりメモ等を持ち歩き書き残すことをしないので、これから意識していきたいと思いました。報告後の一言も参考になりました。
- とにかくメモをとることを習慣として、会社でもメモをとるようにしたいです。報告の大切さを知りました。これからも心がけていきたいです。

## 第6回

- 人を理解するために4つのタイプで分けそれぞれを認め合わせる事が大切だと分かりました。これから社会でたくさんの人と接する上で大切にしようと思います。
- 私は人との会話がとても苦手なので、まず、相手がどのようなタイプか考えて相手に合わせる方法を聞いて勉強になりました。

## 第7回

- 効率の良いメモのとり方を学べて良かった。今日習った書き方を明日からやってみようと思う。使いやすいノートも探す。
- 私は、最近日誌を書き始めたのですが、あったことをそのまま日記アプリで入力するだけだったので、紙に書くことから再度挑戦しようと思った。

## 第8回

- 相手のことを考えて言葉を選ぶことが大切だと分かりました。大切な7つの言葉を使えるように今から気を付けていきたいです。普段くだけた言葉をつかいがちなので気をつけたいです。
- 人と関わることは、社会を生きていく上で必要不可欠だと思いました。表情をつくることは苦手ですが、努力します。

## 第9回

- 私は、話すことが苦手なのですが、コミュニケーションをとるときに大事なものは、聞く事と教えてもらったので、聞くことをしっかりと取り組むことから始めたいです。
- 立派な社会人ではなくて立派な企業人になりたいと思いました。素直に「はい」と行動に移せるように意識していきたいです。

## 第10回

- 自分のためではなく相手に対して気をつかえるようになりたいと思った。
- 基本のことではあるけれど、挨拶は自分からしようと思った。大事なマナーや気配り・心配りはたくさんあるけれど、ちょっとしたことで変わることを学んだ。
- 自分も授業中に意識が飛んでいることがあります。やはり自分も先生も良い思いをしないので、こういった振る舞いから直していかなくては社会人としてもやっていけないと再確認することが出来ました。

## (2) 定通合同職員研修会

本校は多部制のため勤務態勢が異なり、全職員が参加できるよう長期休業中に設定せざるをえないが、今年度は南東北インターハイの開催に伴う業務・動員等もあり開催が難しい状況であった。そのため、定時制の定期考査の時間割を調整しての開催となり、定時制からの要望に応じたテーマ設定となった。

### 平成29年度 「定通合同職員研修会①」

講演「アクティブラーニングを考える」

講師：山形県立庄内総合高等学校 教務主任 五十嵐 一明 先生

日時：平成29年 9月6日（水） 15：15～16：30

山形県立庄内総合高等学校は、平成7年度県内初の単位制・総合学科の設置校であり、平成28年度から文部科学省指定事業「高等学校基礎学力の定着に向けた学習改善のための調査研究事業」を行っている。

定時制では本事業の「多様な学習歴を持つ生徒への対応」の研究を進めるにあたって、D委員会を中心として〈探究型学習〉の視点から授業研究を試みており、昨年度は探究型学習・アクティブラーニングについての理解を深める目的で研修会を開催、各教科の校内研究授業を行い、今年度も同テーマでの研究授業が予定されている。

昨年度の感想では「本校はコミュニケーション・自己表現の苦手な生徒が多く、このような授業展開が負担になる。」という意見もあった。また、「講演会や書籍・ネットで公開されている授業は、小中学校、進学を主とする高等学校の事例が多く、あまり参考にならない。」という声も聞かれた。そこで、基礎学力の定着を掲げ、様々な授業改善を試みている庄内総合高等学校の具体的な事案を伺いたいと依頼した。

### 講演

#### (1) 庄内総合高等学校の紹介

#### (2) ウォーミングアップ

2択の質問事項に対してその根拠をふまえて答える。時間設定を行い、時間を視覚的に捉えさせる。(スクールタイマー)

#### (3) 【チーム庄総】取り組みについて

アクティブラーニングの原点：大切なことは教師がどう教えるかではなく、生徒がどう学ぶか。

→ 授業を変えれば、学校が変わる。

例年、授業研究実施期間を設けて校内研究授業を行ってきたが、授業研究の成果があがらない状況をふまえ、アンケートを実施。

アクティブラーニングを取り入れた生徒の基礎学力の向上・定着を図る授業の工夫、教員同士の授業技術の継承・連携強化、学校全体としての授業改善に取り組む方向性を確認。

そこで、京都大学教授溝上慎一氏に平成18年度の山形教育センター研修会で出会い、京都教育フォーラムにも毎年参加している経緯もあり、講演・助言をいただくこととなった。様々な課題の中でも「基礎学力を定着させるには授業ルールの徹底。授業以前の凡事徹底」が最も重要という意識を共有した。

授業改善については教員全員を【チーム庄総】と位置づけ、教科横断型の小チームを編成しそれぞれチーム名をつけ、具体的な計画・目的を示し研究を行った。教員の「授業改善」の取組みを通じての変容（資料18シート参照）では、3自分自身の授業において変容がある／4生徒に変容がある／5生徒は「アクティブラーナー」になろうとしているという項目のパーセンテージが低いという現実があったが、生徒の方が変化を感じ取っているようであった。溝上先生からは、教師の生徒に対するコントロールの甘さ、行動の意味づけを理解させることを指摘された。「アクティブラーニングをすることで生徒の基礎学力が身につく」と安易に考えるべきではない。アクティブラーニングは生徒が発表すればいい、グループ学習をさせればいいという手法に終始してしまう嫌いがあるが、それは生徒を本気にさせる仕掛けに過ぎないということを理解する等、教員の意識を喚起していただいた。

#### (4) グループワーク

スクールタイマー・イーゼルパッドを活用したグループワークの実践。付箋に意見を書き、話し合いながら貼り付けまとめる。

##### 【3分】

- ・自己紹介
- ・役割 誕生日順に
  - 1 司会
  - 2 発表
  - 3, 4 発表サポート
  - 5, 6 他チームへの質問者
- ・チーム名（名付けの根拠）

テーマ①：生徒に授業を行う上で、問題だと感じていることは何ですか。

テーマ②：テーマ①であげた問題だと感じていることに対する対策は、どんなことが考えられますか。

テーマ③：アクティブラーニング型授業に挑戦しようと思いますか。